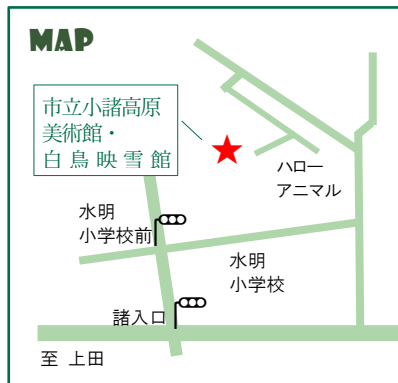


こ み ち

本の小途

Vol.17
2024.冬号

特集 地域と人と。縁むすびの一步



= 表紙写真 = 飯縄山中腹から浅間を見る。(2023年10月撮影)

『ドーン』

「浅間だ！」大きな音とともに父は玄関先へ。何かとついていくと暗闇の中に浅間山が赤く浮かび上がっていた。小学3年の冬、初めて浅間が噴火したのを見た。

私の通う小学校では6月に浅間登山というのがあった。うる覚えだが、1年生は青年の家まで、学年が上がるごとに浅間山荘、一の鳥居、不動滝、…6年で浅間山登頂だったと思う。3年生までは順調だったが、例の噴火で登山規制がかかり、そのまま山頂に登る機会が失われてしまった。社会人になってからも黒斑山までは登ったがその先は未踏破である。

この先、浅間山に登ることがあるかどうかはわからない。が、浅間はいつもそこにおいて、毎日見ても飽きない。山を見上げるとホッと自分分がいる。

令和5年度、本途人舎は下記のような事業を行いました。

《マルシェ参加》

- 『ビオマルシェ』5.20/5.21 古本の販売、お話し会など
- 『ビオマルシェ』7.15 ひと箱古本市、和綴じワークショップ、絵本読み聞かせなど
- 『ビオマルシェ』8.20 古本の販売
- 『古本とおいしいもので過ごすマルシェ 2023 秋』9.18 古本・エコバックの販売、絵本読み聞かせ、エプロンシアターなど

《読む町聞く町魅せる町プロジェクト vol.13 開催》

- 映画上映会『ぼけますから、よろしくおねがいます』9.30

《語らうまちば学 開講》

- vol.1 7.23/9.2/9.16 「ジェンダーを語ろう
1970年代の第2波女性解放運動が伝えたかったこと」
- vol.2 「わたしたち（小諸市）の未来（子どもたち）について」
11.18/12.3/12.17

当日の様子などはFacebookで紹介させていただいています。それぞれのイベントにご参加いただいたみなさまありがとうございました。

賛助会員 募集のお願い

わたしたち本途人舎は**本と人、過去と未来**をつなぐ活動をしています。わたしたちの活動へのご支援を募集しています。

年会費（個人）一口3000円（団体）一口10000円

●銀行振込

振込先：特定非営利活動法人 本途人舎（名義名：ホントヒトシャ）
八十二銀行 小諸支店 普通 口座番号 1128420
※新規で振込にて申し込みをされる方は、お手数ですが、本誌奥付のメールアドレスまでご一報ください。

今月の元標 (第7合目) ふたたび

夜を荒れて火を見し
浅間冴え返る

『佐久の文学碑』78p 5.町の文化向上に尽くした小山曲水句碑
(宮澤康造 著 / 樫 / 1995.6)

小山曲水：本名 小山廣。明治22年小諸市与良町生まれ。明治37年に小諸義塾に入学。島崎藤村の小諸時代の最後の教え子となる。俳諧の道に進みつつ町会議員も務めるなど、小諸町の文化向上にも貢献した。

「元標」とは浅間山に登る人のための道しるべのことをいい、小諸八幡神社を起点に全10合で出来ています。

2024年の一冊

2024年は江戸川乱歩 生誕130年

江戸川乱歩は、1894（明治27）年10月21日に生まれました。日本における本格推理小説、ホラー小説の草分け、日本探偵小説の父とも呼ばれています。日本推理作家協会の初代会長でもあります。

これを機会に、江戸川乱歩という杜の奥深く分け入ってみてはいかがでしょうか。抜け出せるかどうかは、あなた次第…。



『別冊太陽 江戸川乱歩』
(戸田安宣監 平凡社)

2019年に本途人舎を設立してから、皆さまと様々な形でご縁を結んできました。2024年は「甲辰(きのえ・たつ)」。成長と変化の年とのこと。皆さまと共に、よりよい一年になるよう頑張りますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。本途人舎代表・大林晃美

メンバーおすすめの一冊



『共感されるリーダーの声かけ 言い換え図鑑』
吉田幸弘 / 著 ぱる出版

選んだ人 橋詰 将哉

「言いたい事があるけど、そのまま伝えると相手を傷つけてしまうかも…」そんな場面で役立つ「言い換え」が実例を用いてわかりやすく紹介されています。仕事の場面以外にも、日常生活でも応用できる内容でオススメです。

編集後記

今号は、新年の発行ということもあり、「縁」というキーワードを意識してみました。偶然であれ必然であれ、2024年が、弊社も皆さまもご縁に恵まれる一年になりますように (K)

『地元写真家がいちばん見せたい にっぽんの絶景』

(#みんなの地元推し/著 別所隆弘/監修 玄光社 2022.1)

日々を過ごしている“地元”のいい瞬間を写真という形で紹介している本。「#みんなの地元推し」のタグで検索すると、他の投稿写真を閲覧できるようになっています。自分のまわりの“推し”な風景を撮ってみる、それならすぐにはじめられるかも。



2,700円+税 ISBN 978476831581



『手書き地図の作り方』

(手書き地図推進委員会/編著 学芸出版社 2019)

誰でも気軽に参加出来て、地元の良さを共有できる「手書き地図」づくりの実例が満載です。作戦会議、取材、地図づくり、それぞれのコツが紹介されています。

『つながる技術 幸運な偶然を必然にするには?』

(小山薫堂/著 PHP 研究所 2011年)

偶然から始まった人との出会いを、どう大切にしていいたらよいか…。そもそもつながるための技術とは。そのための姿勢や気持ちの持ち方を、柔らかい言葉で教えてくれる一冊。エピローグは必読です。



※現在電子書籍のみ販売

地域と、人と。 縁むすびの一步

2024年がご縁に恵まれる年になることを願い、ヒントになるような本を紹介します。

『素が出るワークショップ』

人とまちへの視点を変える22のメソッド』

(饗場伸/編著ほか 学芸出版社 2020.9)

初対面の人同士が“素”の部分で関わり、仲間になって、新しい活動を作っていくにはどうしたらよいか。

アイスブレイク、実験ワークショップなど、出会いという“小さな冒険”に役立つ具体的なヒントが紹介されています。



『わたしのコミュニティスペースのつくりかた みんとしよ発起人と建築家の場づくり』

(土肥潤也 若林拓哉/著 ユブックス 2023.2)

コミュニティスペースの作り方について、イメージ作り、準備、運営し始めてからの悩みへの対応策など、実際の運営者の声が紹介されています。実践を考える時に参考になる内容となっています。

『子どもまちづくり型録』

(木内勇 寺田光成/編著 松本暢子 三輪律江 吉永真理/共著 鹿島出版会 2023.6)

人と人、人と場所の関係を作りながら、子どもが育つ町づくりを進めるためのアイデアが108個詰まったカタログ。気になるページを読み、回りを見直して、何か出来そうなことがあるか考えてみては。



本と人を紹介するコーナー

ほんとひと

旅をする人にとって、一期一会の縁の場ともいえるのが“宿”。

明治三十一年の創業から、今年で百二十五年を迎える中棚荘では、訪れる方たちに“気づきのある旅”を提供することを大事にされています。

そうした中で、ここ数年で具体的に取り組み始めたのが、地域と旅人を結びつけるということ。実際にどのようなことをされているのか、お話を聞かせていただきました。

Q 旅館は、日々がお客様とのご縁の場だと思いますが、ご縁という言葉から思われることはありますか？

富岡さん(以下T) 縁という言葉には「繋がり」と「結びつき」という二つの形があると思います。繋がるの反対は離れる。では、結びつきはというと、一時はきつく結ばれたものが時間が経ってゆっくりにほぐれて、ちょうどいい加減の関係性になる…。それが結びつきではないかと思えます。例えば、子どもの頃旅した思い出が、時間が経ってゆっくりにほぐれて、「また行きたい」と思える、

そんな関係性が旅から生まれたらと思っています。

Q 地域と旅人を結びつけるという取り組みの狙いは？

T 宿が地域の文化を根づかせる為の場所の一つになるということです。地域で文化を作りだされている方々と何が出来るか、その段階からスタッフが関わります。そうすることで、スタッフが小諸という土地に自信と誇りを持てるようになる。そして、その思いが磨かれ、発見、感動、付加価値といった宿としてのプロデュース力に反映されていくことを目指しています。

Q 十月には、初恋りんご祭り〜今、新鮮に藤村〜二〇二三と銘打ったイベントを開催されましたね？

T ご存じの通り、中棚荘は島崎藤村とご縁があります。藤村の有名な詩題の中で、「りんご」が初恋の比喩として用い

られた言葉に由来し、湯船にりんごを浮かべる「初恋りんご風呂」を始めて三十五年余になりました。

Q 小諸時代とも呼ばれる藤村が過ごした七年間の記憶、そして藤村と当荘との結び付きの記憶を新たに、更に次世代へと繋げる活動の一環として、イベントを開催しました。当日は、地元で活動する作家さんによるクラフト体験、演奏会などを行いました。



T 出店者の方々には、りんごにちなんだ作品や商品を準備していただきました。宿泊のお客様、地元の方たちがゆったりと参加できる自由度の高いイベントでした。この取り組みは、コロナ前から始め

ていましたが、コロナ禍を経て、より大きな機会となりました。

Q 今後も開催の予定はありますか？

T これまで、旅というものは非日常であり、内側への作りこみが多かったように思います。今後は、旅で出会いが生まれるように、宿が地域の文化活動と繋がりに、宿泊の方はもちろん、地元の方々にも気軽に訪れていただき、出会いが波紋のように広がっていったら。縁ってどこでどう繋がってもいいですね。この取り組みは、内容自体も決まらず、試行錯誤しながらやっていこうと思います。

Q 最後におすすめの本を一冊ご紹介ください。

T 今回の話題に繋がっているかと思いますが、「新装版 毎日が冒険 高橋歩/著 サンクチュアリ出版 二〇〇一年」です。最初に



夢は逃げない 逃げるのはいつも自分だ!

富岡 直希 さん

代表取締役 社長



《中棚荘》

〒384-0802 長野県小諸市乙 1210 番地 ☎0267-22-1511

読んで、その時は、こんな人生もあるのだと思いました。自分自身の旅の思い出は、学生の頃はスポーツ(レスリング)をしていた関係で、旅というより生活に近い環境で外国に行くことがあり、観光ではない見え方を経験できたことが印象に残っています。

〜ありがたいごさいました。中棚荘さんを身近に感じることが出来ました。〜

(取材日 二〇二三年十一月)



なかだなそう 中棚荘 代表取締役 社長